

塙保己一



- * 塙保己一の誕生
- * そして江戸へ
- * 学問への道
- * 検校となり
- * 群書類従
- * なぜ埼玉の偉人なのか
- * 参考までに

塙保己一の誕生

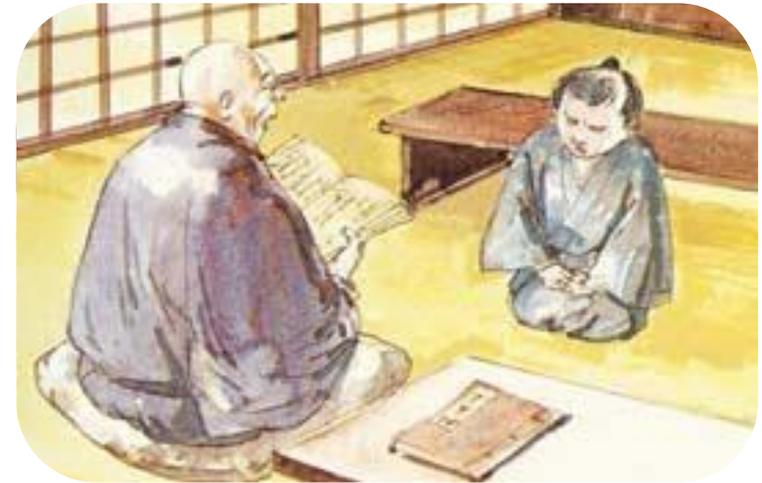
1746年5月5日、現在の埼玉県本庄市
児玉町に父・荻野宇兵衛、母・きよの長
男・寅之助として江戸時代後期に生ま
れた。生まれつき身体は弱く5歳で疳の
病気(胃腸病)にかかり、眼に症状が生
じ徐々に視力が落ちていき、7歳児にそ
の病が元で失明してしまった。そして、
10歳で最愛の母親を亡くし失望した。



そして、江戸へ

手のひらに指で文字を書いてもらい文字を覚えた。人から聞いた話を忘れる事はなく一言一句を違わずに語れ、物覚えは良かった。絹商人から江戸の風潮を知り思い立つ。

1760年、15歳で江戸へ出た。江戸屋敷の元に身を寄せ3年間は盲人として修行したが(鍼・灸・按摩・箏・三味線・長唄等)上達せず、悩み、雨富須賀一検校(本姓・塙・盲人生の師匠)に「学問がしたい」と申し出た処、条件付き(三年間は面倒見よう、見込みがなければ故郷に帰す)で認められた。



学問への道

——学問の道へ——

雨富検校は様々な学問(文学・医学・律令・神道など)を広く学ばせた。

書を見る事は出来ないが人が音読したものは暗記し進めた。漢学・神道・律令等を学び、盲官の一つ衆分の身分が与えられた。そして名を保木野一と改めた。1775年には勾当の身分となり塙(雨富検校の本名)と姓を改め、同時に名も保己一と改名した。

1779年「群書類従」の出版を決意し、検校の職へ進む。



検校となり

——検校となり——

1783年盲人の最高官僚の検校となる。

和学講談所(集まり同一の本を読み研究・討論をする所)を開設し、会読を始める。ここを拠点とし記録や

手紙に至るまで様々な資料を蒐集し、編纂したのが「群書類従」である。

歴史資料の編纂も「史科」としてまとめた。この「史科」は現在も東大にて続けられている「大日本史科」がそれである。



群書類従

塙保己一が編纂した国学・国史を主とする一大叢書。

塙保己一が古書の散逸を危惧し、1779年(安永8年)、菅原道真を祀る北野天満宮に刊行を誓った。江戸幕府や諸大名・寺社・公家などの協力を得て、収集・編纂した。古代から江戸時代初期までに成った史書や文学作品、計1273種を収めている。寛政5年(1793年) - 文政2年(1819年)に木版で刊行された。



なぜ埼玉の偉人なのか

埼玉県本庄市が出身地。

人生の様々な出来事に翻弄されながらもその時々を精一杯生きられた。大きな挫折を体験し、そこから学び

新しい人生に新しい価値を創られた江戸時代の国学者でした。

「群書類従」「続群書類従」等を編纂し、国学・国史を主とし江戸初期時代迄に成った史書の文学作品1273種を集大成した叢書(多くの書物を集めまとめた書)である。



***** 参考まで *****

- ・群書類従(ぐんしょるいじゅう)・続群書類従(ぞくぐんしょるいじゅう)とは、塙保己一が編纂した国学・国史を主とする一大叢書。
- ・盲官の位(江戸時代の盲人の役職＝検校(けんぎょう)―(一)別当(べつとう)―勾当(こうとう)―(一)座頭(ざがしら)―(一)衆分(しゅうぶん))
- ・川越市笠幡に川越の豪商により創立された埼玉県立特別支援学校塙保己一学園がある。障害ある幼稚園～高等部までの一貫教育を行っている。
川越駅の構内アナウンスにこの学園生が協力し「点字ブロックの上に立ち止まったり、荷物を置かない様に～」等を行っている。
- ・ヘレンケラーは母親から塙保己一の事を聞き、手本として勉強したそうです。 完